

北九州市立総合療育センター 小児科紹介



総合療育センター小児科の役割

総合療育センター小児科は、小児を中心に、発達障害の診断・治療、発達のフォローや育児相談を行っています。

病棟では、入所中の重症心身障害児・者、肢体不自由児・者の健康管理や、多職種による「親子入所（こあら入所）」を行っています。

主な診療内容

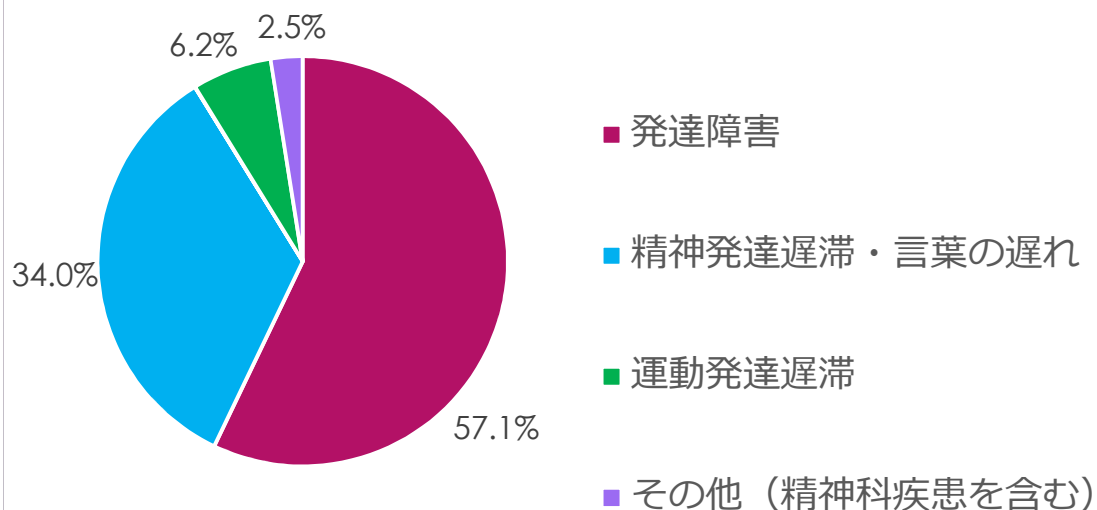
- ・発達障害の診断・治療
- ・発達の遅れや偏りがある方の発達フォロー・育児相談
- ・子育て・発達支援外来（カンガルー外来）
- ・親子入所（こあら入所）
- ・入所児・者の健康管理

外来

	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
小児科外来年間受診数(人)	10,953	11,046	10,254	10,176	9,624

R2:新型コロナウイルスによる減少あり

令和2年度当センター全体の発達系外来疾患内訳



【概要】

- ▶ 小児科外来の2/3のケースに対し、発達障害の診断・治療を行っています。
- ▶ 小児科外来の1/3のケースがリハビリテーション目的です。

病棟

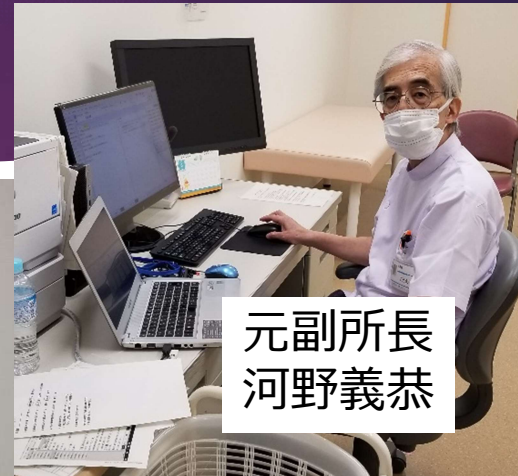
【概要】 令和3年8月27日時点

- ▶ 5歳から72歳まで74名の方が入所しています。（平均29歳）
- ▶ 神経疾患、脳性麻痺、溺水後脳症、急性脳症、染色体異常など入所者の疾患や病態は様々です。
- ▶ 医療的ケアが必要な入所者は、人工呼吸器管理11名、胃瘻・腸瘻28名、経鼻胃管5名、EDチューブ（経鼻経腸チューブ）1名です。

小児科医師



小児科部長
藤田弘之



元副所長
河野義恭



副所長
友納優子

多職種の関わり センターの強み



看護、訓練、指導スタッフと多職種連携によるチーム医療を行っており、違う視点からの意見を聞けるので学びになっています。